



いつか、
ナースやヘルパーになって
みんなにやさしくして
あげたいな…。

止めよう!
医療崩壊

加速せよ!
医師増員

地域医療の再生を求める

「医師・医学生の請願署名」
の呼びかけ

and

12・14 県民公開講演会のご案内
「医療崩壊はこうすれば防げる
～医療現場の過重労働解消への処方せん～」

病気のときの
お医者さんの笑顔って
元気になる魔法の薬
みたいだよ。



医師・医学生署名 富山県呼びかけ人からのメッセージ



富山県医師会
会長 福田 孜

20年以上にわたって国が進めてきた医師数・医療費の抑制策が、今日の「医療崩壊」をもたらしました。

県民が望む安全な、良質な医療を行っていくには、財源に裏打ちされた医師数の増加が絶対に必要です。医師の増員を加速し、その養成にかかわる教育体制の拡充の大切さを富山県医師会も主張しています。

今回の署名活動に多くの方がたのご賛同とご協力をお願いいたします。



公的病院長協議会
会長 泉 良平

社会的共通資本である医療の根幹が揺らいでいます。医療費の過ぎた抑制が地域医療の破綻を招いています。

医療崩壊が目前にある今、これまでサイレントマジョリティとして声をあげなかった医師が一致団結して、国民の健康を守るために異議を唱えねばなりません。

医師自らの署名活動への取り組みが、国民の心を動かすと信じます。



富山大学医学部
学部長 宮脇利男

市民は医療を安心して受けられる体制を求めています。そのためには医療の中心的役割を担う医師が元気でなければなりません。

しかし、地域では医師不足が進み、勤務医は疲れきっています。これでは市民は不安です。また、医療に希望がもてません。

今、勤務医の過重労働解消や医師養成数の増員に向け医師のみならず医学生自身も立ち上がる時です。



全日本病院協会
県支部長 横田 力

医師の不足問題は、研修医制度の発足前より判っていたのではないと思う、と申すのは小生の知っている複数の公的病院の院長から危惧の声を聞いていたからである。

第一線医療の現状を全くわからず、わからない文科省と厚労省、この縦割り行政の狭間に生まれた一つの異形の産物と言えるだろう。

今日の医療崩壊と言われる現状は、厚労省の考える小手先の改善策では到底通用しないことと知るべきだ。



富山県保険医協会
会長 矢野博明

県民の医療と福祉を守ることを活動の基軸としている協会は、第一線の保険医の立場から医師不足による地域医療の崩壊に懸念を述べてきました。

医師の過重労働や医療事故が社会問題となっているなか、地域住民に満足できる医療体制が提供できるよう活動していくことは私どもの責務であります。

保険医協会は今回の請願署名に賛同し、保険医の皆様をはじめ医学生諸君にお願いするものです。

加速せよ! 医師増員 止めよう! 医療崩壊

地域医療の再生を求める 医師・医学生への請願署名

【医師・医学生対象の署名です】

衆議院議長殿・参議院議長殿

年 月 日

請願事項

1. 地域医療を守るために、勤務医が働き続けられるよう抜本的な施策を早急に講ずること。
2. OECD諸国並みの医師数をめざして、大幅な医学部定員増を早急に行うこと。そのために医学部の教育体制を拡充すること。
3. 生涯にわたって全国各地でも医師が学び続けられるように、指導医の確保など医師研修制度を充実させること。
4. それらに必要な予算措置をとること。

請願趣旨

世界に誇る日本の医療システムは、公的医療費が抑制される中でも、今日まで現場の医療関係者の懸命な努力で支えられてきました。しかし、これまでの長時間・過重労働に加え、医療技術の進歩、医療安全や丁寧な病状説明に対する期待の高まりなどで、特に勤務医の労働環境はさらに悪化するばかりです。ここにいたって現場の医師の頑張りも限界を越え、産科・小児科、救急医療をはじめ全国で勤務医不足が顕在化し、医療崩壊がドミノ倒しのように広がっています。現在日本の医師の絶対数不足は、国際比較でも明らかで、特に病院医療を担う勤務医不足は深刻です。今後、団塊の世代の高齢化で医療需要が爆発的に増大すれば、大量の医療難民が発生することは間違いありません。

こうした状況の中で政府は「日本の医師は不足している」と認め、更に超党派の議員連盟が発足し医療崩壊阻止に立ち上がりました。厚生労働大臣は「従来の閣議決定に代えて、医師養成数を増加させる」と表明しました。日本より一足先に同様の医療危機に直面したイギリスでは、すでに医学部の定員を59%も増やしています。今こそ必要な予算措置をとり、実効ある対策を早急に実施することで、医療崩壊を阻止し、国民皆保険制度に対する国民からの信頼を回復するように努めなければなりません。

私たちは医療の専門家である医師として、また将来の日本の医療を担う医学生として、地域医療再生のために次のことを要求します。

氏名	住所	医療機関名・所属	どちらかに○を
			医師 医学生

(私のひと言欄)

署名用紙は裏面です。切り取ってご提出下さい。

※署名いただきました用紙は、リーフレットから切り離し、以下の方法で提出をお願いします。
なお、非常勤の先生もご協力下さい。(1回で結構です)

署名用紙の提出方法について

【1】開業医及び民間医療機関に勤務する医師の場合

→ 富山県医師会へ返信用封筒等にてご提出下さい。

【2】公的病院に勤務する医師の場合

→ 各病院の医局にご提出下さい。

【3】大学に勤務する医師の場合

→ 大学の各医局にご提出下さい。

【4】大学の医学生の場合

→ 教務学生課医薬系学務事務室に
設置されたボックスにご提出下さい。

署名の集約及び国会提出について

- ・この署名は、11月14日を第1次集約日、12月14日（講演会当日）を第2次集約日とし、12月末をもって終了と致します。
- ・県内の署名の最終実務は県保険医協会が行い、「医師・医学生署名をすすめる会」（埼玉県済生会栗橋病院気付）に届けます。
- ・衆議院議長・参議院議長への提出は、「医師・医学生署名をすすめる会」が全国の分をまとめ責任をもって行います。

県民公開講演会（12月14日）参加申込書

- 参加費無料、どなたでも参加できます。
- 会場準備の都合のため、参加ご希望の方は下記ご記入の上お申し込み下さい。
- ウラ面の署名用紙と一緒に提出いただくか、FAX（076-442-3033）でお申し込み下さい。

お名前		人数	人
医療機関名 ・所属		どちらかに ○を	医師・医学生

※署名提出時点での予定で結構です。その後の変更についてはFAX等でご連絡下さい。